

教育 を 読む

河合文化教育研究所
主任研究員 丹羽健夫

高名な老物理学者が連れの男と、中国の西域天山山脈を望む草原を歩いている。草原には白い羊の群れが点々と草を食んでいる。羊飼いの少年がひとり、岩に腰をおろして番をしている。連れの男は昨日、宇宙観をめぐってあの少年にやりこめられたという。それを聞いた老物理学者はカラカラと笑って、宇宙の真理は単純にして明快なものだ、物理学なら $E = mc^2$ に集約できるし、佛教ならば“色即是空”だ。よしっ、少年に宇宙観を教えてやろうと勇み立つ。

「馬と車について」

老物理学者が少年のところへ行くと、少年は、馬で来たの、と尋ねる。老物理学者、いや車で。ここから馬と車の問答がはじまる。

——少年は言う。馬はどこへでも行けるけど、車は道がなければ駄目だ。車の食べるガソリンは高いが、馬の食べる草はただだ。馬は乗ったまま眠れるけど、車を運転して眠ったら大変だ。車の取りえは唯一速いことだけど、速いことにはそれほど意味のあることじゃないんだ。



◀ 『羊の宇宙』

著者 夢枕 獏
絵 たむらしげる

定価 本体 1,524 円＋税

——老物理学者 どうして速いことは意味がないんだい。例えば、刈り取った羊の毛を街まで運ぶのに、車なら馬の半分の時間で済むじゃないか。そしたら余った時間を他のことに使えるじゃないか。

——少年 違うよ。その人は、一日に、二度、羊の毛を車に積んで、街まで出かけてしまうことになるのさ。余った時間に働いてしまうんだよ。速くなるということは、時間が余ることじゃなくて、もっと忙しくなるということなんだ。

「万有引力の法則について」

——老物理学者 わたしは学者だから考えることが仕事なのさ。

——少年 何を考えるの。

——老物理学者 宇宙の法則を見つけるのさ。ほらここに石を持ってい

る。手を離す。石が地面に落ちる。これは重力が働いているからだよ。

——少年 ちがうよ。それは石が落ちたがっているからなんだよ。

「宇宙の組成について」

——老物理学者 きみは、この宇宙がどういうものでできているか、知っているのかい。

——少年 うん。ふたつのものからできているのさ。

——老物理学者 (ふむふむ、水素とヘリウムを知っているな)

——少年 この宇宙はね、羊と、羊じゃないものからできているんだよ。

物語のラストに、老物理学者の正体についての落ちがある。教室での生徒との問答の材料が、いっぱい詰まっている面白い本です。